

しえん便り

R6年10月
発行

特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました。

8月8日(木)に、特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました!今回は5年ぶりの対面形式での協議会となり、みくまの支援学校を会場に行いました。

前半は、くまのワーク&カレッジの河原京子先生をお招きし、『集団の中で共感と自己肯定感を育む～9-10歳は具体的思考から抽象的思考、論理的思考への移行期～』というテーマでお話をいただきました。9-10歳の子どもは、様々な力や見方が成立する時期だからこそ、自尊感情の低下やつまづきが起こる可能性があり、共感による自己肯定感を育てていくことが大切だということを学びました。



午後からは分科会に分かれ、様々な校種の先生方が混ざったグループで、普段の学校生活で心がけていることや悩みなどを共有しました。「わかるわかる!」と共感できたり新たな知見を得られたり...とても実りある時間となりました。

参加者の方々からは、こんな感想をいただいています!

- ・悩みが軽く小さくなったり、子どもたちとやりたいことがたくさん出てきたり、大変幸せな時間がたい時間でした。
- ・河原先生の具体的なお話に「なるほど」「そうだったんだ」...と自分の学校の3・4年生の子が浮かんできました。

子どもたちは皆、「今日よりも明日はもっとよい自分になりたい」という願いや仲間や先生や先輩・大人への憧れを持っています。『冷たい頭とあたたかい心と巧みな手を』をいう言葉を胸に、子どもたちがそれぞれの願いの実現のためにがんばれるように導いていきたいですね。
(鍋屋)



8月30日に開催予定でした第2回きこえとことば・みえかた相談会は、台風10号の影響を考慮し中止となりました。つきましては、第3回きこえとことば・みえかた相談会は新たに相談者を募集せず、第2回に申し込んでいただいていた方を対象に開催することとなりました。ご理解、ご了承のほどお願いいたします。なお、巡回相談、教育相談、聴覚巡回相談は随時受け付けていますのでご希望の方は支援部までお問い合わせください。

みくまの支援学校(0735)-31-6101



～自信と安心と小さな植木鉢～

みくまの支援学校高等部窯業班の実践から

(前半はしえん便り7月号に掲載)

校舎の大規模改修工事のため電気窯も使えなかった窯業班、畑での野焼きは火の加減・温度の調整が難しく、やり始めた頃は作品のほとんどは割れてしまいました。そんな中、A君が「参考になるかも」と持ってきた七輪陶芸の本をよりどころに温度の上げ方や熱の伝え方、加熱の時間・・・たくさんの試行錯誤を重ねた窯業班の5名の生徒たちは1年間で20個の小さな植木鉢を焼き上げました。

冒頭のA君の言葉は彼がその小さな植木鉢を作っていたときのもの。見事に完売したそれらの小さな植木鉢は、それぞれ必要としてくれた人の下で今も小さな命を育てていることと思います。

秋の販売活動で初めて見るA君の作品を手に取り「これください」と微笑みながら声をかけてくれたお客さん。「ありがとうございます」とうれしそうにはにかむA君。成長する自己にゆったりとした安心感を得るからこそ、努力が継続し、目標を修正し、目標を再生産することができる。かつての自分より今の自分を誇らしく感じる心は、将来への希望を生み出すことでしょう。教育は子どもたちを中心に学校や家庭、地域・社会が小さな喜びをつなぎ合わせる協働の営みでありたいと思うのです。

(浦木)



参考文献「障害のある人の働く姿から」2019.きょうされん
鳥取大学地域学部地域教育学科准教授 三木祐和